作品詳細

YUKARI

アピールポイント

小田原提灯をモチーフに常備しやすいドギーバッグ。伝統のある小田原提灯の畳み込むことができる、平たい中骨が胴紙を剥がれにくくし、雨や霧に強い耐水のあるなど構造の特徴がドギーバッグに相性が良いと思い、伝統と新しい文化の良い所の融合を目指したドギーバッグのパッケージアイディアとして提案します。かつて旅人が旅の必需品として畳み込んだ提灯を懐に常備していた様に、ドギーバッグを外出の必需品として常備し、文化が普及してほしいです。デザインタイトルであるYUKARIはドギーバッグが食品と人、環境、伝統と新しい文化など食品ロス削減につながる縁（ゆかり）や関わりのきっかけになることを願って名付けました。

コンセプト

カバンの中などに常備しやすいドギーバッグ

衛生面
食品を持ち帰る目的で使うため
衛生的でなければならない

環境面
プラスチック容器の普及で
ゴミの量が増加

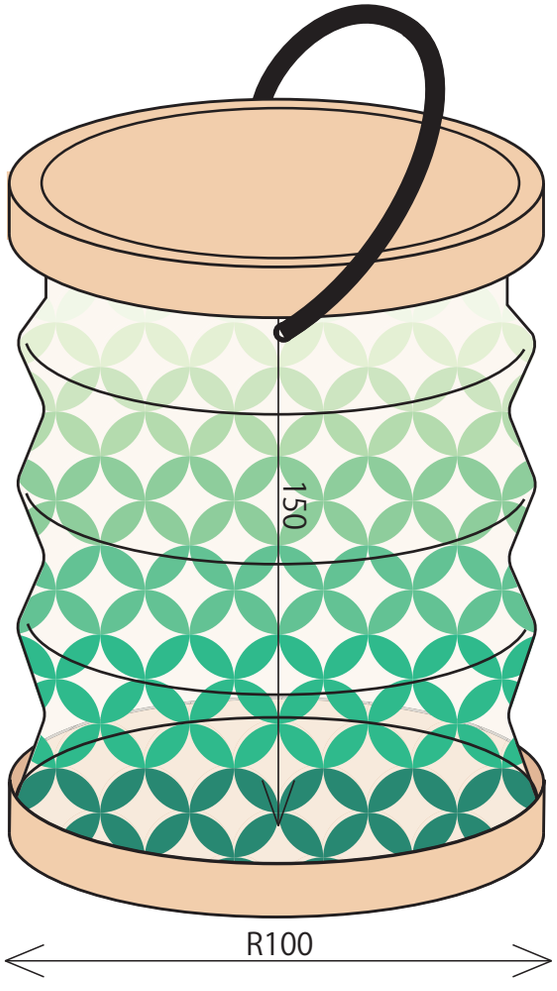
↓

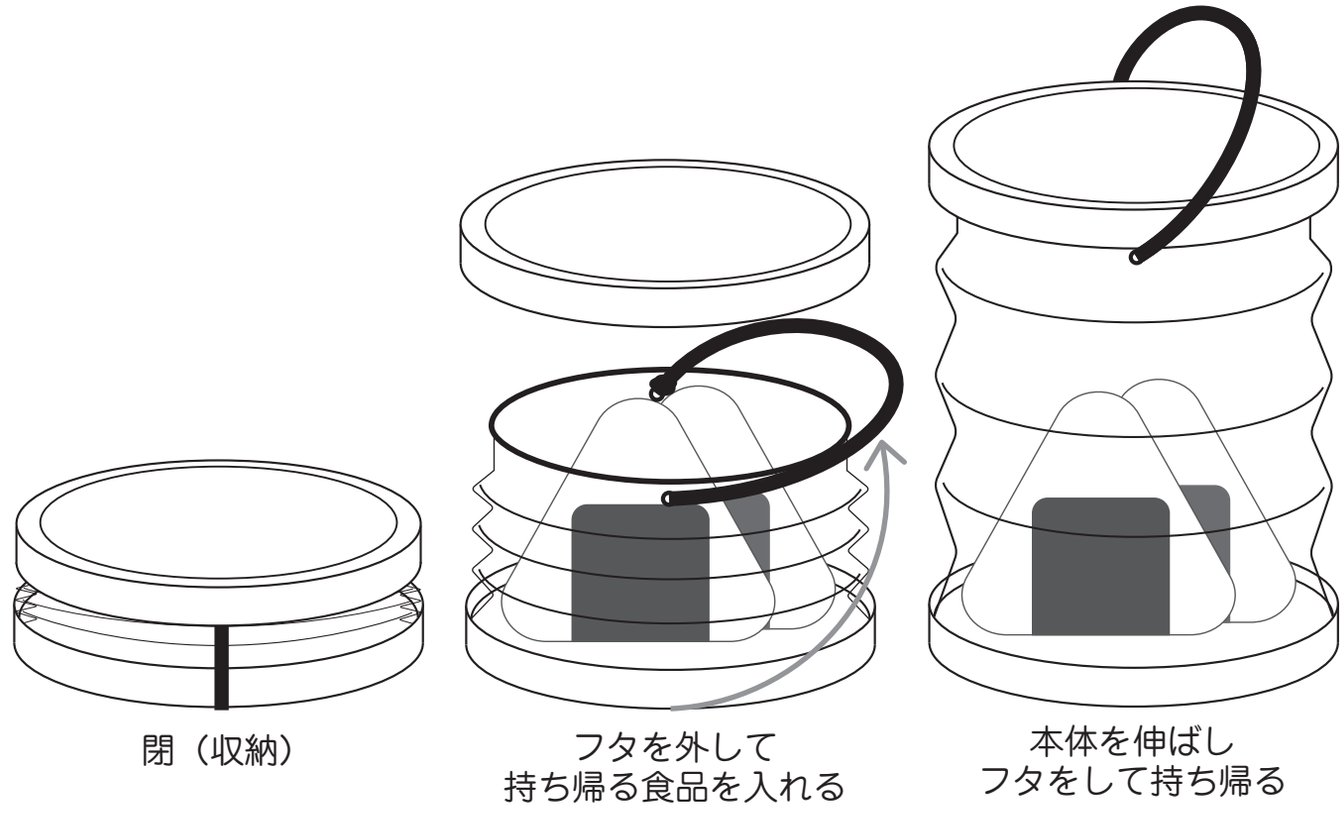
素材で解決

リサイクルできる素材

耐水性と強度のある素材で洗って清潔に繰り返し使用可能

・日本製紙パピリア株式会社　OPER 紙





デザイン案

伝統の提灯（小田原型）をモチーフに

上下に伸縮できる構造

※参考 URL:https://www.city.odawara.kanagawa.jp/municipality/industry/jibasan/

グラフィック

すでにドギーバッグと共に、持ち帰り自己責任カードやステッカーが使用されている
そこで、容器本体も合わせて緑を貴重にした和柄を使用
また、七宝柄は縁やつながりの意味があり、食品ロスを削減する
ドギーバックからつながる新たな縁を表現している

今までにない

・伝統と新しい文化の融合
・組み立てがいらないため、誰でも使いやすい

持ち帰りやすい

・コンパクトで常備しやすい
・持ち運ぶときは持ち手になり、収納するときはまとめるバンド付き

持ち帰りたくなる

・洗えて清潔に繰り返し使える
・和を感じるグラフィック

→

ドギーバッグが日本に根付き、食品ロス削減に繋がる